

活動発表 憩いの花広場花壇

私は「憩いの花ひろば」と名付けた花壇の責任者で、南明大寺町総代でもある長坂秀志と申します。

花壇の最初の発端は、沖折戸公園の東西南北約 120mある外周の土手の法面が、車の不法駐車などによって削られました。そのまま放置すると外周の金網フェンスが倒壊する恐れが生じたため、市に依頼して全てをブロックで壁を造ってもらいました。そして、フェンスとブロックの間をイヌツゲや満点星などの低木を植栽する計画であったものを、町内会で花を植え、環境をより美しいものにしたいという思いがありました。そこで、有志による「沖折戸公園花くらぶ」を結成し、活動を始めました。

当時、前総代で花壇責任者でもあった人は、実業高校の先生で、農業園芸の専門家であり、先頭に立って活動していただきました。途中から全市花壇コンクールにも参加するようになり、毎年のように入賞するようになりましたが、近年は佳良賞止まりが続いていました。毎日、日課のように公園に出向いては作業され、そろそろ春の種蒔きの下準備にかかろうとした矢先のこの3月に、癌のため急に亡くなられ、私が急遽まとめ役を受けることになりました。

会員はベテランが多く、今まで指導を受けながら、種蒔き、ポット上げ、定植や花の管理などを長年行ってきましたので、手順や作業は熟知していました。しかし、5月18日にマリーゴールド、サルビアなど市指定の6種類の種蒔きをしましたが、高温のためか殆ど発芽せず、全滅状態で失敗しました。花の種の追加を市にお願いして、6月1日、2日に再び種蒔きを行いました。ネットによる遮光を更に上げ、風通しも考慮して管理した結果、万全とはいかないものの発芽しました。本葉が出た6月16日、25日にポット上げ、7月3日、6日に花壇に定植しました。外周全て花で埋めるために花数が足りず、市指定以外のヒマワリ、キバナコスモス、七色コスモスなど、昨年採取した種を直播きして補いました。

コンクール用花壇のデザインは、今回「花の泉」と題し、花の輪が泉のように湧き流れるさまをイメージして、円形に植え付けをしました。定植が遅れたため、今まで8月上旬であった審査時期を8月下旬に遅らせました。デザイン的には百日草の丈が高くなり過ぎたのが反省で、植え付け位置を考慮したいと思います。反省点も多くありますが、久しぶりの優秀賞を受賞できたことに会員も喜んでいきます。会員も年齢が高くなり、リタイヤする人が増え、会員数が減少してきているのも今後の課題となっています。